

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
歴史学				井口 和起	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>「歴史とは何か」を論じて、古典的名著とされるイギリスの現代史家、E・H・カーの『歴史とは何か』（清水幾太郎訳・岩波新書・青D1）を読み込むことで歴史というものの根本的な問題について考えることにします。哲学者が歴史哲学を解くのではなく、卓越した歴史家が歴史の研究と叙述の経験を通じて論じたものですから、理解しやすい語り方になっています。とはいえ、古典を読み解くにはそれなりに努力が必要です。しかし、大学生になったのですから、古典的な著作を読むことの大切さと同時に楽しさを味わってほしいと考えています。</p> <p>授業計画にあるとおり、この著作の全6章を各章2回に分けて読み進めます。そして中間でお互いの理解をめぐって意見交換します。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>私たちが何らかのかたちで日々接している歴史に関する情報への批判的・理性的な接し方の基礎を学び、歴史学の基本的な考え方で再認識できること。そのうえで、歴史学の考え方を基礎に歴史意識・歴史認識・歴史観などの言葉の意味を理解し、多面的な視点から歴史に関する自分の考えをまとめる能力を持つこと。そして現代世界を過去・現在・未来へつなげる歴史過程として把握できる歴史的思考に習熟することなどを旨とします。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンス：この著作の意義と授業のねらい・進め方				
第 2 回	I 歴史家と事実①				
第 3 回	I 歴史家と事実②				
第 4 回	II 社会と個人①				
第 5 回	II 社会と個人②				
第 6 回	III 歴史と科学と道徳①				
第 7 回	III 歴史と科学と道徳②				
第 8 回	中間まとめ：理解できたこと出来なかったことをめぐって				
第 9 回	IV 歴史における因果関係①				
第 10 回	IV 歴史における因果関係②				
第 11 回	V 進歩としての歴史①				
第 12 回	V 進歩としての歴史②				
第 13 回	VI 広がる地平線①				
第 14 回	VI 広がる地平線②				
第 15 回	最終まとめ：古典から何を学んだか？				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で毎回指定するテキストの該当部分を予習しておくこと。 ・授業中に必ず質疑応答・意見交換を行うから、準備をしておくこと。 ・授業では毎回出席カードに授業に関する疑問・感想などを書いて提出してもらいます。 					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
授業中の討論への参加 (20%) 毎回提出カード記載内容 (20%) 最終レポート (60%)	秀：歴史の根本的な問題の枠組みを理解し、現代世界を過去・現在・未来へつながる歴史過程として適切な例を引いて説明できる。 優：歴史の根本的な問題の枠組みを理解し、歴史上の重要な出来事について自分の認識とその根拠を説明できる。 良：自分がこれまで持ってきた歴史的イベントについての認識を再検討する作業を行った結果を説明できる。 可：授業の概要をほぼ理解できている。
テキスト (Textbook)	【書名】 『歴史とは何か』 【著者】 E・H・カー 【出版社】 岩波書店 (岩波新書) 【出版年】 2016年第86刷発行
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	新版・『歴史のための弁明—歴史家の仕事—』 (マルク・ブロック著・松村剛訳、岩波書店、2004年刊)
備考 (Other Information)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	一覧表参照。